
企業のメセナ活動と社会文化の醸成

—児童詩を軸としたメセナ活動を中心に—

福山平成大学 中嶋裕子

はじめに

「メセナ」[mecenat]という言葉は、芸術文化支援を意味するフランス語で、古代ローマ時代の皇帝アウグストゥスに仕えた高官マエケナス(Maecenas)が詩人や芸術家を手厚く庇護したことから、後世その名をとって「芸術文化を庇護・支援すること」を呼ぶようになった。

我が国では、1990年に企業メセナ協議会が発足した際、「即効的な販売促進・広告宣伝効果を求めるのではなく、社会貢献の一環として行う芸術文化支援」という意味で「メセナ」という言葉を導入し、現在では、「企業の行う社会貢献活動」として解釈されるようになっていく。メセナ実施企業の約7割(305社)が、複数の分野においてメセナ活動を行い、約半数の活動が5年以上継続していることを鑑みれば、企業メセナ活動は着実に発展を遂げていると言えよう。

本稿は子供の感性と創造性を育む手立てとして「詩」を用いた企業メセナ活動の事例を取り上げ、その活動実態を分析しメセナの意義と可能性について言及することを目的とする。詩の分野に着目する理由は第一に子供から高齢者までが参加でき、年齢を選ばないこと、第二に活字として残されるためアクセシビリティに高いこと、第三に率直な感動や思いを社会に届けられるという特徴があるためである。

1. 企業のメセナ活動における目的

企業がメセナ活動を行う目的は、さまざまであるが、企業メセナ協議会の2010年度の「メセナ活動実態調査」によると、「社会貢献の一環として」

(92.7%)と回答した企業が最多となり、「地域社会の芸術文化振興のため」(66.5%)、「芸術文化全般の振興のため」(54.0%)、「長期的にみて自社のイメージ向上につながるため」(58.1%)と続いた。

2. 詩を軸にしたメセナ活動の概要

メセナ活動を行った企業は2009年度で、有効回答企業660社の内、439社であった。メセナ活動総数2,646件の芸術分野をみると、「音楽」(39.2%)、「美術」(26.3%)が多く、次いで「伝統芸能」(9.2%)、「演劇」(6.3%)、文学(6.0%)であった。2009年度以降「詩」を軸に展開している企業は西部ガス株式会社、株式会社資生堂、姫路信用金庫、株式会社百十四銀行、六花亭製菓株式会社の5社に留まり(表1)、実質的に児童詩を対象に審査した活動は、西部ガス株式会社、姫路信用金庫、六花亭製菓株式会社の全国で3社であった。以下この3社の活動について言及する。

1) 西部ガス株式会社

西部ガス株式会社は、詩の創作を通じて子供の自然への関心を高め、ことばの創造力を育むことを目的に1997年に詩作コンクール「地球のことば 子どものつぶやき」を創設した。対象者は福岡県 長崎県 熊本県の小学生である。2009年度(14回目)までは1,000件程度であったが、教育委員会、各小学校への働きかけの結果、2010年度以降3,000件を超える応募数がある。応募作品の中から優秀作50点を選定し表彰、優秀作を詩集「地球のことば 子どものつぶやき」にまとめ、図書館などに

表1 詩を軸にメセナ活動を行った企業（2009年度実績）

	活 動 名	対 象	実施地域	開始年度
西部ガス株式会社	詩作コンクール 「地球のことば 子どものつぶやき」	小学生	福岡県 長崎県 熊本県	1997年
姫路信用金庫	「子供の詩 有本芳水賞」運営	小学生	兵庫県（播州地区）	1989年
六花亭製菓株式会社	児童詩誌サイロ	小・中学生	北海道（十勝地区）	1960年
株式会社資生堂	現代詩花椿賞の選考・表彰	成人	全国	1983年
株式会社百十四銀行	心の詩コンサート（第18回）	児童～成人	香川県	1992年

寄贈している。

2) 姫路信用金庫

姫路信用金庫は、姫路で生まれた詩人 有本芳水を顕彰し、地域の子供たちの情操を高めることを目的に、1989年に「子供の詩 有本芳水賞」を創設した。対象者は兵庫県の主に播州地区の小学校である。応募者数は年々増加し、昨年度の播州地区の応募校率は63.3%で、約9,500点の応募があった。その中から37点の入賞作を選び、受賞作品をまとめた「有本芳水賞記念詩集」を発行し、小学校や図書館、金庫支店や施設に無料配布している。詩の選考は文庫運営ボランティア、詩人、児童文学作家及び元教員など文学と学校教育に造詣の深い人物が務めている。

3) 六花亭製菓株式会社

六花亭製菓株式会社は、子供の精神文化の耕し、心の財産づくりを目的に1960年に児童詩誌『サイロ』を発刊した。対象者は十勝地方の小・中学生である。『サイロ』は毎月刊行され2010年末には611号に至った。毎月200～300編の詩が寄せられ、十数編が冊子に掲載される。毎号4,500部程を発行し、応募者と十勝管内の小中学校、図書館、希望者に無料配布されている。詩の選考、編集は、地元小中学校の教師で構成される「サイロの会」が担当している。

3. メセナ活動を通じた社会貢献の実際

それぞれのメセナ活動が与える応募者らへのインパクトについて各関係者のインタビューから検証したい。

1) 詩作コンクール「地球のことば 子どものつぶやき」 西部ガス株式会社

「特別支援学級に所属する重度の障害を持ち、会話の成立が難しい生徒が詩を書き入賞した。親も本人も担任教員にもたいへん喜ばれた。別の障害を持った生徒が応募したところ入選し、それが大きな励みとなって10年経過した現在も詩を書き続け、教諭に詩を郵送し続けている。また、昨年度不登校気味の生徒がいたが、受賞したことが大きな励みとなり自信をつけ、日々元気に登校するようになった。」

このように、コンクールが自己肯定感を高めたり人生における楽しみや目的の創出に貢献していることが確認できた。

2) 「子供の詩 有本芳水賞」姫路信用金庫

以下は、応募経験のある10校の小学校教員へのインタビューを実施し、その結果を以下3項目にまとめたものである。

① 教師による子供の発見

「子供が背負っているもの、背景がわかる」「大人では考えられない感覚、子供らしい率直さを知ることができる」「知らなかった子供の姿が見える。こんなことに驚いたり、感動するのだと。子供らしい感動の発見がある」など、教師による子供の世界の再発見のきっかけとなっていた。

② 子供による自身の再発見

「子供は自分で自分の力を知ることはできない。応募や受賞を通して新たな自分を発見する。自信と励みになっている」と、子供自身による自己発見の機会となっていた。

「応募をきっかけに自己表現の楽しみを知り、詩を書き始めた。」「詩を書くのが好きになり、詩のノートを作っている」「病気がちな子であったが入賞したことが励みとなり、その後入退院を繰り返しながらも詩を書き続け、後に詩集を出版した」など詩の世界に誘われる様子があった。

多くの小学校では、入賞すると朝会で全校生の前で表彰され、朗読の機会が与えられる。受賞者にとって非常に誇らしい体験である。選外であっても優れた詩は学級で朗読され学級便りに掲載されることが多い。身近な友人の作品が表彰され記念詩集となることで「自分もできるかもしれない」と子供同士が大いに刺激を受けていた。

③ 教材及び地域の詩としての活用

「国語教育の一環として授業に取り入れている。」「子供は長い文章を書くのが苦手なので、箇条書きである詩は取り組みやすい。その意味で詩は自己表現としては最適な手段でもある」「低学年は感情の自由な表現を、高学年では反復や倒置法を導入し指導しているが、受賞作など作品集は指導教材にもなる。小説を読むことはあっても詩を身近に感じられる機会は少ないので、詩の紹介をするにも役立っている」と、教材としても活用されていた。

優秀作品は記念誌集となり、各店舗、小学校及び図書館に配布されるが、地域で朗読ボランティアに用いられ、また老人ホームにおいても活用されている。

以上のように、「教師による子供の再発見」、「子供による自身の再発見」、「教材及び地域の詩としての活用」の機会となっていることが確認できた。

3) 「児童詩誌サイロ」 六花亭製菓株式会社

児童詩誌に掲載されることで子ども達の励みになっている。また、本誌を通じた教育活動の展開として、詩を書くことによる教育的意義を紹介し、その方法にも言及するなど教育指導のアドバイザー的役割も果たしているⁱ。

4. メセナ活動での企業側の手応え

以下はメセナ活動での企業側の手応えについて詩のメセナ活動に関わる担当者のインタビュー及び、報告書などからその声を拾い上げたものである。

1) 詩作コンクール「地球のことは 子どものつづき」 西部ガス株式会社

「応募される詩は力が入っていない、素直な心の声が多く、詩を見るだけであたたかいものが込み上げてくる、そういった作品の応募を社員一同が楽しみにしており、社員意識の高まりにも貢献している」との声が聞かれた。

2) 「子供の詩 有本芳水賞」 姫路信用金庫

詩人であり、選考委員を務める安水稔和氏は有本芳水賞の存在意義について「表現を通して人間教育の一環を果たしていると言っても過言ではない」と語り、元小学校教師・児童文学作家で、選考委員を務める鹿島和夫は「人間の多様な生き方、人間について観察し、生き方を体験し、様々な人に心を配る機会になっている」(第10回記念詩集)、「社会的意義のある存在として、また児童詩の歴史に残る事業となっているのでは」(同18回)と語っている。

2009年には有本芳水賞が、姫路市から芸術文化振興に功績のあった個人や団体に贈られる「芸術文化年度賞」を受賞するなど、播州地区の文化振興に貢献した取り組みが評価されている。

i 教育的意義として、子供にとっては物事を見つめる力を培う、思いや考えを表現する力が身につくこと、教師にとっては生徒理解や保護者との連携に活かせること、教師と子供の心の絆作りになることを説明している。詩を書かせるための指導のポイントとしては、題材を決めて短い文章から始めたり、曜日を決めて詩の紹介をしたり、思いや気付きを大いに誉める、などを挙げている。

3) 「児童詩誌サイロ」 六花亭製菓株式会社

希望者には詩誌を無料送付しているが全国からも感動の手記が届いている。その他の活動も展開しているが地元への貢献という意味で従業員の誇りになっているとの声が聞かれた。

2011年には、メセナアワード2011（企業・企業財団による、優れたメセナ活動を顕彰）で「児童詩誌サイロ」が文化庁長官賞部門を受賞した。

おわりに

詩は、子供から高齢者までが参加しやすく、その時々思いや感動を素直に表現する最適なツールであると考えられる。教師のインタビューから、生活環境が厳しく、学校生活の態度が安定しない生徒や友達との意思疎通がうまくいかず窮屈な思いをしている生徒の存在が聞かれた。そのような環境の中で企業が詩を書く機会を提供し、そこで評価されるという体験は子供にとって学校という場以外の存在、社会とのつながりを感じられる意義のある体験であると考えられる。

今後メセナ活動によるさらなる社会貢献、社会文化の醸成が期待される。

《資料》

詩を軸に展開している企業の内、児童詩を対象としないメセナ活動について担当者へのインタビューをもとに報告する。

1) 「心の詩コンサート」 株式会社百十四銀行

「心の詩コンサート」は、地元の住民とより多くのふれあいの場を持ち、豊かな地域社会づくりに貢献することを目的に1992年に開始された。この趣旨は「心に残った曲と、その思い出を綴ったエッセー」を募集し、選ばれた曲をコンサートで歌手が歌い、エッセーを読み上げるというものである。応募者はリピーターが多く、2011年には97件の応募があった。応募者の中には書き溜めたエッセー集を出版する人もおり、生き甲斐の創出にもつながっているようである。

年に1度開催されるコンサートは高齢者層の唯

一の楽しみとなっている場合も多く、1,800人の定員に対して毎年6,000を上回る応募があり、抽選にもれた人からなんとかチケットを手に入れられないかという電話が何十本もかかってくる。

銀行員を身近に感じてもらうため、コンサートも企画・演出、会場整理、司会を行員が担当している。また、音楽大学出身者で結成された20名のコーラス部隊がステージを飾るなど銀行員のイメージアップにも一役買っている。営利目的ではなく、地域の皆様にプレゼントしたいという思いで活動を展開しており、その意図は十二分に地元住民に伝わっていると感じている。行員たちも地元で愛されたイベントとして自負している。

2) 現代詩花椿賞 株式会社資生堂

現代詩と詩作に携わる人々への支援を通じて、ことばが本来持つ力を再発見し、表現力、想像力に満ちた、豊かな社会づくりに貢献することを目的に1983年に創設された。年度内に発行された詩集を選考委員が独自に審査し最も優れた1冊を表彰するものでその対象の主は成人である。受賞者には、特製香水入れと、賞金100万円が授与されている。

【参考文献】

- 加藤 英一 (2010) 「おおさかミュージアム雑観(2) 企業メセナの光と影」『市政研究』(169), 64-67.
- 河島伸子 (2008) 「企業メセナ-文化政策の重要な一主体として」『家計経済研究』(79), 30-38.
- 企業メセナ協議会 (2010) 『メセナレポート』 企業メセナによる顕彰 (2010) 『サン・アート』 36(8), 24-27.
- 公益社団法人企業メセナ協議会 (2011) 『文化芸術活動に対する民間寄付の実態調査-女性認定制度2010年利用実績のまとめ-』
- 公益法人企業メセナ協議会 (2011) 「その時、公益法人は、どう動いたか-震災復興へ向けた、公益法人自らの現地支援活動(第4回)公益社団法人企業メセナ協議会」『公益法人』40(10), 19-22.

- 菅家 正瑞 (2010) 「企業フィランソロピーと企業メセナ」『経営と経済』89(4), 27-72.
- 菅家 正瑞 (2010) 「実験的メセナの実施報告(その4)」『経営と経済』89(4), 111-143.
- 菅家 正瑞 (2009) 「企業はなぜメセナをするのか? -その基礎的考察-」『経営と経済』89(2), 115-144.
- 三浦典子 (2009) 企業メセナと現代アートのコラボレーション--衰退地域活性化の試み『山口大学文学会志』59, 53-73.
- 荻原 康子 (2011) 「企業メセナ、GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)の取り組みについて」『音楽芸術マネジメント』3, 46-48.
- メセナ活動データベース <http://mecenavi.info/2010/index.html>